

平成28年度NPO等による復興支援事業

いわて文化支援ネットワーク通信

アシスト・なう

17号

発行日
平成28年8月31日

発行:特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター / 印刷:杜陵高速印刷株式会社

吉里吉里ふるさと科公演事業



7月20日(水)
於:吉里吉里学園中学部

7月20日(水)、吉里吉里学園中学部9年生全22名を対象に「台本つくろうプロジェクト」と題して、演劇作りワークショップを開講した。このプログラムは10月の文化祭発表

まで全9回開講する予定で、指導者として二宮彩乃さんと畠山泉さんを派遣する。

県内全域が晴れ渡ったこの日、大槌町吉里吉里は盛岡に比べやや肌寒く感じられた。海を見下ろせる高台に吉里吉里学園中学部がある。平成27年度から小中一貫教育が開始されたこの学園にはこれから本番日を含めて9回訪れる予定であり、この日初めて生徒たちと交流した。

大槌町には町内の小中学生を対象とした独自のカリキュラム「ふるさと科」というものがある。この「ふるさと科」では、復興にむけて魅力的な地域づくりをしていくために、復興・防災教育、キャリア教育、郷土学習を行っている。今プログラムでは、生徒自らがふるさとについて学び、考えて言葉にすることを目的として、9年生(中学3年生)を対象とした脚本づくりワークショップを行う。



多目的ホールに集まった生徒たちは気恥ずかしいのか、始業のベルまで私たちと顔を合わせてくれなかった。今後の進行に少し不安を感じたが、指導者を含めて挨拶をし合うワークショップが始まると、少し打ち解けたよう笑顔が見え始めた。ワークショップの最中、生徒たちと指導者は全員「呼んでもらいたい名前」を書いた名札を貼り、その名前を呼びあうこととした。挨拶のワークショップではそのお互いの名前と、好きな食べ物を発表し合い、また次の人と挨拶をしていく。慣れてきたら、今度は自分と相手の「名前と好きな食べ物」を交換して別れ、



朝から晴天に恵まれたこの日、もろおか町家物語館の「風の広場」に十和田乗馬クラブの皆さんと九戸城流騎馬実行委員会の皆さんが、4頭の馬と共に来館された。この事業は主に沿岸被災地から盛岡に避難されている方を対象として、馬とのふれあいによる「心の復興」を目的に企画された。当日は観光に訪れた一般のお客様も参加され、乗馬体験や、レザークラフト体験、お絵かきや餌やり体験など沢山の体験事業が行われた。

乗馬体験では3頭の馬にそれぞれ



乗馬し、広場全体をゆっくりと一周した。子どもだけでなく大人も体験することができた。大人になってから初めて乗馬した人も多かったのではないだろうか。見た目では小ぶりに見えた馬でも実際乗ってみるととても高く感じるようだった。今回乗馬体験を行った馬は、ポニーの一種「ハフリンガー」と北海道産「道産子」を掛け合わせた「ドサリンガー」という種類。体高が低く大きさはやや小ぶりではあるが、親子2人で乗っても悠々と歩き続けるほどたくましい馬たちだった。乗馬体験をし



たお子さんの中には、怖くて泣いてしまった子もいたが、多くの方は乗馬をしながら馬を撫でたり写真撮影をしたりと楽しんでいるようだった。

広場の一角に開設されたレザークラフト体験とお絵かきコーナーも大賑わい。レザークラフト体験は、あらかじめカットされた革にアルファベットやさまざまな模様の刻印棒を木槌で打ち込んで名前入りのキーホルダーを作った。お絵かきコーナーでは子供たちが思い思いに馬のスケッチをしていた。また、馬に触って

みるコーナーもあり、ここではステッキを使って足を上げるよう指示したり、蹄鉄(ていてつ)の着いていないひづめやその周りを触ってみたりなどの体験ができた。実際に触ってみると男の子は「やわらかい!」と一言。足の裏の色々な部分を触ってみる貴重な学びの場もなったようだ。

最後に、乗馬体験をした馬たちに全員で餌やり体験。たくさん歩き回ったせいか準備したにんじんを全て平らげてもちよつと足りないようすだった。その後馬たちと参加者で記念撮影をし、全行程が終了した。

「馬とふれあおう」は、参加された皆さんの笑顔がとても印象的な事業となった。1時間半という短い時間ではあったが、沢山の方が来場され、楽しんでいただけたように感じた。運営団体の十和田乗馬倶楽部の皆さんと九戸城流騎馬実行委員会の皆さん、ご来場くださった皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。



次に出会った人に交換後の「名前と好きな食べ物」を挨拶していく。ちゃんと覚えておかないとあやふやになってしまう焦りや、「あの人はこれが好きだったんだ」という発見で、あちこちで笑い声が起こった。

その後は、一人の歩くスピードに合わせて全員で歩き回ったり、円形になって拍手をつないでいくといったウォーミングアップを行った。身体も温まり、指導者と生徒たちの距離が縮まったところで、この日のメインテーマ「吉里吉里中からた作り」が始まった。

「吉里吉里中からた」とは、その名の通り吉里吉里学園中学部につい



てのかるたである。私たちに学園のことを教えてほしいと伝え、生徒たちに50音が書かれたカードを一人3枚ずつ配布し、校内を歩き回りながら自由に作ってもらった。早く作り終えた生徒にはさらに何枚か配布して書いてもらった。

完成したかるたはみんなで発表しあった。「あ」：あおい海が見える校舎、「ふ」：服装が皆正しい良い生徒、「じ」：自慢できるきれいな校舎、など、魅力的なかるたが沢山発表された。発表中、時折生徒たちは「おー」という感嘆の声や、「えー?」という疑問の声などを素直に発してくれた。出会ってすぐの



シャイな皆様はどこへやら、今後のワークショップにますます期待が膨らんだ。

今回は8月30日、31日の二日間指導者を派遣する。今度は学園を飛び出し、吉里吉里全体について紹介するという名目で、「吉里吉里のクレヨン箱」を作成してきてもらうことにしている。これは生徒自ら決めた12色の風景を写真に収め、台本作りに向けて特色ある文化や風景を見つけてきてもらうための試みだ。どんなクレヨン箱が出来上がるのかとても楽しみである。



馬とふれあおう

7月30日(土) 13時半~15時
於・もろおか町家物語館風の広場

7月30日(土)、盛岡市鉦屋町にあるもろおか町家物語館にて「馬とふれあおう」を開催した。これは社団法人全国乗馬倶楽部振興協会被災地支援(馬とのふれあい)事業として企画され、いわて文化支援ネットワークが運営のコーディネートを行った。

‘いわて震災詩歌 2017’ 募集のお知らせ

怒りを、悲しみを、希望を握りしめ、言葉を詩にたたきつけよう!!

あの東日本大震災から5年半。被災地では、明日の希望に向けた着実な歩みが続いています。いわてアートサポートセンターでは、被災した方々や、被災地に寄り添う方々から、その思いが凝縮した詩を募集します。

喪失の怒りや悲しみ。そして再生への意志や未来への希望、支援への感謝など、様々な思いを詩に託して、自由に表現してみませんか？

お寄せ頂いた作品は、一般の部（大学生も含む）と高校生以下の部とに分け、選考を経た上で、何篇かを詩集「いわて震災詩歌」として発行します。

さらに、掲載詩の一部は平成29年3月開催の「3.11文化復興支援フォーラム」にて朗読発表いたします。このフォーラムでは、「震災と詩歌」と題して文芸関係者によるパネルディスカッションも行われます。

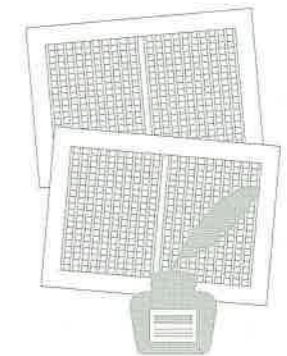
応募方法

◎応募点数は1人3編以内とし、1編がB4版400字原稿用紙4枚以内。ワープロ原稿も可。

原稿用紙は開いたままホチキスで右綴じとすること。作品は未発表のものに限り、応募原稿は返却しません。

作品には「題名」「氏名」「年齢」「住所」「電話番号」「学校名または職業」を原稿の欄外に記入し、下記宛先までご郵送ください。

- ・応募資格 岩手県在住の方。岩手県出身の方。
- ・募集期間 平成28年9月1日(木)～11月30日(水) ※必着
- ・募集部門 一般の部(大学生も含む)、高校生以下の部
- ・選考結果発表 平成28年12月中を予定
- ・選考委員 東野正さん(岩手県詩人クラブ会長)
池田克典さん(前岩手県文化振興事業団理事長)
斎藤純さん(作家、「街もりおか」編集長)
- ・応募先 〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3階
いわてアートサポートセンター内 「いわて震災詩歌」係
- ・主催・問合せ 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
TEL: 019-604-9020 E-mail: kaze@iwate-arts.jp
- ・協力 岩手県詩人クラブ



詩が採用された方には、薄謝を進呈します。若い世代の方の応募もお待ちしています。

いわて文化支援ネットワーク

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3F
NPO法人いわてアートサポートセンター内
☎019-604-9020 FAX:019-604-9021
E-mail:kaze@iwate-arts.jp
http://ibsn.web.fc2.com/

●支援金振込先(振り込み手数料は負担願います)

- みずほ銀行 盛岡支店(普) 1190698
 - ゆうちょ銀行 店名【八三八】(普) 0808732
 - 岩手銀行 中ノ橋支店(普) 2074520
- ※口座名:いわて文化支援ネットワーク

ご支援、ご協力
ありがとうございます

現在の支援金総額 **10,248,109円** (平成28年8月24日現在)